

実施報告書

2022 年度日系社会次世代育成研修

(中学生招へいプログラム)

オンライン学習

2022 年 10 月 1 日～2023 年 2 月 14 日 (日本時間)



2023 年 4 月

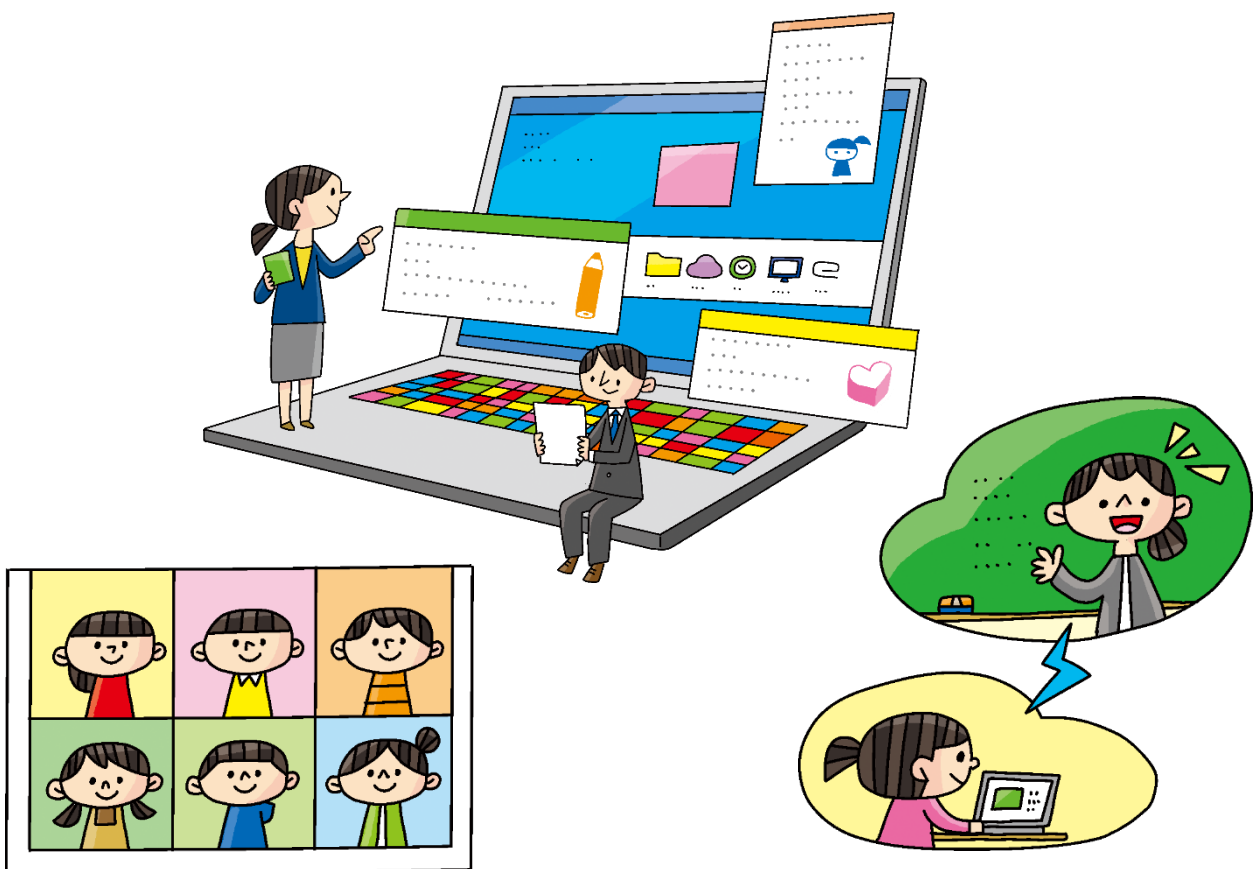
独立行政法人国際協力機構 (JICA) 中南米部

公益財団法人海外日系人協会

目次

1. 日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）の概要	1
2. 参加者人数内訳（国・学校別）	6
3. 2022年度オンライン学習 プログラム日程	7
4. プログラム内容	8
5. 総評	20

【参考】 2022年度「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）
オンライン移住学習」募集要項



1. 日系社会次世代育成研修(中学生招へいプログラム)の概要

(1) 研修の沿革および目的

本研修は独立行政法人国際協力機構（JICA）が中南米地域への移住者の定着・安定のために移住者子弟教育として1987（昭和62）年度に「日本語学校生徒研修」として開始し、2012（平成24）年度からは、名称を「日系社会次世代育成研修」、2015（平成27）年度からは「日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）」として実施しています。

例年、本研修では、海外の日本語学校に在籍する成績優秀かつ品行方正で将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日本語学校生徒を本邦へ招へいし、日本人の海外移住の歴史に関する学習、中学校体験入学、ホームステイ、その他の各種研修を通じて、自分たちのルーツに対する理解と日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティの強化を図ることを目的として研修を実施しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、従来訪日研修は実施不可となったことから、2020年度より現地日系社会の12～15歳の生徒を対象としたオンライン学習を実施してきました。オンラインによる移住学習プログラムでは、日本人が「なぜ」「いつ」「どのように」アメリカ大陸に移住したのか、「どのように」ニッケイ・コミュニティを形成し、「なにを」を創出してきたのかについての学びを通して、課題解決能力やコミュニケーション能力を高め、コミュニティへの貢献意識の高い人材育成を目的としています。

移住学習プログラムに加え、2021年度からは日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）で実施するプログラムを一部、オンライン上で疑似体験できるよう、日本体験プログラムを実施しています。本プログラムを通じて、日本・日本文化への興味・関心を広げると同時に、日本語学習の継続及び本邦研修参加へのモチベーションを喚起することを目的としたものです。

さらに、プロジェクト学習プログラムでは、世代交代が進んだ日系社会が抱える課題に焦点を当て、祖先の海外移住の歴史や日本文化への関心を高め、次世代への継承につなげていけるよう、自由研究プロジェクトを実施しました。日本にルーツを持つ若い世代に伝えていきたい歴史や文化を自ら調べることで、知識の定着や課題解決能力の向上につなげることを目的としたプログラムです。



(2) 対象国および人数

対象国： 10カ国 ※日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）対象国に同じ

1陣：カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラ

2陣：ブラジル、ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチン

参加国および参加者数： 7カ国 40名（延べ人数 226名）

① 移住学習プログラム（参加国および参加者数内訳）

参加国	移住の歴史・時代背景		人の移動、モノの移動	ニッケイ・コミュニティ	ニッケイ・アイデンティティ
	10/15	2/4			
メキシコ	4名	0名	2名	2名	0名
ドミニカ共和国	0名	2名	2名	2名	1名
ブラジル	2名	4名	3名	4名	4名
ペルー	4名	3名	4名	3名	4名
ボリビア	2名	0名	1名	2名	2名
パラグアイ	6名	4名	8名	8名	7名
アルゼンチン	2名	0名	2名	2名	2名
	20名	13名			
	33名		22名	23名	20名

② 日本体験プログラム（参加国および参加者数内訳）

参加国	アイスブレイク	食育・日本料理	日本文化とSDGs	中学生交流会
	10/1	10/29	11/19	12/17
メキシコ	3名	4名	1名	3名
ドミニカ共和国	2名	2名	2名	2名
ブラジル	3名	4名	5名	4名
ペルー	3名	4名	5名	4名
ボリビア	2名	2名	2名	2名
パラグアイ	12名	9名	7名	8名
アルゼンチン	2名	2名	2名	2名
	27名	27名	24名	25名










③ プロジェクト学習プログラム
（参加国および参加者数内訳）

参加国	自由研究 2/13 提出日
メキシコ	4名
ドミニカ共和国	2名
ブラジル	4名
ペルー	6名
ボリビア	2名
パラグアイ	5名
アルゼンチン	2名
	25名

④ 修了証書認定者
（参加国および参加者数内訳）

参加国	オンライン学習 参加者数	修了証書 認定者
メキシコ	4名	4名
ドミニカ共和国	2名	2名
ブラジル	8名	3名
ペルー	7名	4名
ボリビア	2名	2名
パラグアイ	15名	5名
アルゼンチン	2名	2名
	40名	22名

(3) 研修概要

	学習項目	内容
移住学習	【移住の歴史・時代背景】 移住当時へタイムスリップ！ 	日本における海外移住の歴史的背景を知り、入植時の生活や苦難を乗り越えてきた歴史を知る
	【人の移動・モノの移動】 こんなところで日本発見！ 	人の移動によってもたらされた社会変化にはどのようなものがあるか考え、人の移動が起こった結果、新しい価値観が生まれたことに気づく
	【ニッケイ・コミュニティ】 宇宙船に乗って 	移住した日本人が移住先でどのように生活していたのか、入植時の仕事や余暇をどう過ごしていたのか、新天地での生活の中でどのようにコミュニティを形成していったのか、コミュニティの成り立ちについて考察する
	【ニッケイ・アイデンティティ】 ようこそ、先輩！ 	ニッケイのバックグラウンドを持つ先輩との交流を通じて、自身のアイデンティティについて考えとともに、自己の進路について考える
日本体験	【アイスブレイク】 オンライン運動会 	運動会をオンラインで体験し、同世代の日系人と親睦を深めつつ、運動会が各国の移住地で今も親しまれている理由を探る
	【食育・日本料理】 お好み焼きでフュージョン！ 	栄養素や食育に関する知識を学びながら、各家庭をオンラインでつなぎ調理実習をする
	【日本文化とSDGs】 日本人と妖怪 	日本の気候風土で育まれた文化や人々の思想・精神を学び、日本人特有の生きる知恵からSDGsを考える
	【中学生との交流会】 世界をつなぐ10代のしゃべり場 	日本の中学生や同年代の日系人との多文化交流を通して、日本語でのコミュニケーションを実践し、お互いの文化や生活習慣、学校生活について知る
プロジェクト学習	【最終プロジェクト】 自由研究 	日本人の海外移住や日本文化について調べ学習を通し知識を深めつつ、次世代へ継承していく方法を模索する

※ 希望のプログラムを1講座から応募可能。

オンライン学習(イメージ)

zoom ライブ授業はZoomを使用

1 移住学習プログラム



全体講義 + グループ活動
+ まとめ



授業後：各回のプログラム終了後、振り返りアンケートを
Google Formで提出する

フォーム

2 日本体験プログラム



全体講義・ワークショップ
・グループ活動 + まとめ

3 プロジェクト学習プログラム



YouTube

各自、プロジェクト学習に
取り組み、プロジェクトを
提出後、YouTubeで限定公開
し参加者へ共有する

【修了証書授与にかかる履修条件】

1. 移住学習	① 移住の歴史・時代背景	移住当時ハタイムスリップ！	必修
	② 人の移動、モノの移動	こんなところで日本発見！	どれか 1つ 以上選択
	③ ニッケイ・コミュニティ	宇宙船に乗って	
	④ ニッケイ・アイデンティティ	ようこそ、先輩！	
2. 日本体験	① アイスブレイク	オンライン運動会	どれか 2つ 以上選択
	② 食育・日本料理	お好み焼きでフュージョン！	
	③ 日本文化とSDGs	日本人と妖怪	
	④ 中学生との交流会	世界をつなぐ10代のしゃべり場	
3. プロジェクト学習	自由研究	移住または日本文化に関するテーマを自由に決める	必修
		テーマの例 1 次世代へ伝えたい日本・日系文化	
		テーマの例 2 移住史の記録・インタビュー	
		テーマの例 3 日本・日系文化のイベント企画	
		テーマの例 4 日系社会を世界に紹介	

修了証書授与

2.参加者人数内訳(国・学校別)

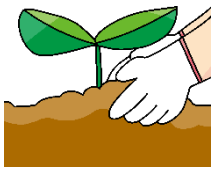
国名	在学中の所属機関名 (和文または英文)	移住学習					日本体験				プロジェクト	参加者	
		10/15	12/3	1/14	1/28	2/4	10/1	10/29	11/19	12/17	2/13	計	国別計
		移住史	日本発見	宇宙船	ようこそ先輩	移住史	運動会	お好み焼	日本人と妖怪	中学生交流会	自由研究		
メキシコ	その他(通学希望)	4	2	2			3	4	1	3	4	4	4
ドミニカ共和国	ドミニカ共和国日本語学校 サント・ドミンゴ校		2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2
ブラジル	Escola de Lingua Japonesa da Acenba (Bastos)						1	1	2			2	
	Escola Aliança Cultural Brasil/Japão		1			1		1		1		1	
	Escola Modelo de Londrina	1					1			1		1	
	パルジェンボニータ日本語学校		1	1	1	1					1	1	
	Escola Modelo de Língua Japonesa-Belo Horizonte, MG			1	1	1			1	1	1	1	
	グアタバラ日本語学校	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	
	その他(通学希望)			1	1	1		1	1		1	1	
ペルー	ラ・ウニオン学校	4	4	2	3	1	2	3	3	3	5	5	
	ペルー沖縄県人会 AOP (Asociación Okinawense del Perú) Mitsuba				1	1	1	1	1	1	1	1	
	Mitsuba			1		1			1			1	
ボリビア	オキナワ第一日ボ学校	1		1	1		1	1	1	1	1	1	
	サンフアン学園	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	
パラグアイ	アスンシオン日本語学校	4	6	5	4	3	8	6	5	3	3	10	
	ラパス日本語学校	2	2	3	3	1	4	3	2	5	2	5	
アルゼンチン	日亜学院	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	
	ラプラタ日本語学校	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	
参加者数計		20	22	23	20	13	27	27	24	25	25	40	

3.2022 年度オンライン学習 プログラム日程

プログラム		現地		日本	
		日付	時間	日付	時間
日本 体験	【①アイスブレイク】 オンライン運動会	2022年9月30日(金)	午後	2022年10月1日(土)	午前8:00 ～10:00
移住 学習	【①移住の歴史・時代背景】 移住当時へタイムスリップ！	2022年10月14日(金)	午後	2022年10月15日(土)	午前8:00 ～10:00
日本 体験	【②食育・日本料理】 お好み焼きでフュージョン！	2022年10月28日(金)	午後	2022年10月29日(土)	午前8:00 ～10:00
日本 体験	【③日本文化とSDGs】 日本人と妖怪	2022年11月18日(金)	午後	2022年11月19日(土)	午前8:00 ～10:00
移住 学習	【②人の移動、モノの移動】 こんなところで日本発見！	2022年12月2日(金)	午後	2022年12月3日(土)	午前8:00 ～10:00
日本 体験	【④中高生との交流会】 世界をつなぐ10代のしゃべり場	2022年12月16日(金)	午後	2022年12月17日(土)	午前8:00 ～10:00
移住 学習	【③ニッケイ・コミュニティ】 宇宙船に乗って	2023年1月13日(金)	午後	2023年1月14日(土)	午前8:00 ～10:00
移住 学習	【④ニッケイ・アイデンティティ】 ようこそ、先輩！	2023年1月27日(金)	午後	2023年1月28日(土)	午前8:00 ～10:00
移住 学習	【①移住の歴史・時代背景】 移住当時にタイムスリップ！	2023年2月3日(金)	午後	2023年2月4日(土)	午前8:00 ～10:00
プロ ジェ クト	自由研究 提出日	2023年2月12日(日)		2023年2月13日(月)	締め切り

4.プログラム内容

移住当時へタイムスリップ！



日本人の海外移住が始まったころの生活を想像した参加者たち。新しい土地で異なる文化に出会った日本人が、原生林の開拓や農園での仕事をしながら、どのように新生活をスタートし、どのような苦難を乗り越えてきたのか、グループで話し合いました。



移住先での生活、 どんなことが大変だったろう

- 言葉の壁
- 衣食住の確保
- 病気
- 新しい環境
- 日本とは違う文化・気候への適応

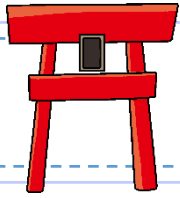


自分だったら
どのような
選択・行動を
するだろうか

- 現地の人たちとうまくコミュニケーションがとれなかったら、孤独感を感じるはずだから、日本人同士の結束が強くなると思う
- 食料を確保したり、家を建てたりするために、助け合う
- 病気になったときは、現地の人に薬草について教えてもらったり、助けを求めたりする必要がある
- 現地の人とは、ジェスチャーや辞書を使ってコミュニケーションをとるようにする

振り返りから

- ◇ 日系人は沢山の苦勞を乗り越えて、頑張ってくれたおかげで今私たちが幸せに生きているんだなと思いました。頑張ってくれた人たちの分、日系コミュニティを大切に、前向きに生きていきたいです。
- ◇ 今はテクノロジーがものすごく発達していて、機械などを使っていますが、移住した頃にはそんなものはなかったので、その人達がどのように過ごしていたか想像が付きません。もっと移住について深く色々なことを沢山学びたいです。
- ◇ 今と違って、移民したときは、まだ何もなくて、みなさんはとても苦勞したと思います。今になってみなさんに聞きたいことは、幸せだったのか、また選ぶチャンスがあればもう一度、移住することを選ぶかを聞いてみたいです。
- ◇ 私がもし移住当時いたらどんな苦勞や経験をしていただろう、団結力はちゃんとあったらと思うました。これからは日本人が移住した国の環境やどんな仕事をしていたかについて調べてみたいです。
- ◇ 移住者たちは慣れない環境で何度も日本に帰りたと思ったと思います。不安と大変さで精神的につらいこともたくさんあったはず。そのたびに強い信念や、きっと良くなると信じていたからこそ頑張れたのだと思います。
- ◇ 移住者に会えたら、私たち日系人にこれからどのような未来を築いてほしいか聞いてみたいです。
- ◇ 日本を忘れないために、そしてドミニカ共和国に適應するために、どんなことをしたのか。



こんなところで日本発見！



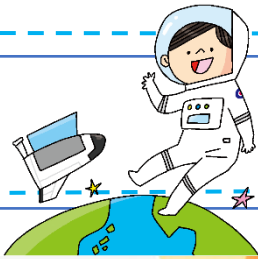
開国を迎えた日本に入ってきた海外の文化が日本人の生活にどのような影響を与えたのか学習したあと、日本人移住者と一緒に南米に持ち込まれた「日本文化」をグループの人たちと一緒に探しました。

アメリカ大陸に移住した祖先・家族を持つ参加者が身の回りで見つけた「日本」「日本文化」からは、日本人が海を渡ったことで居住国に広まった社会変化が見えてきました。

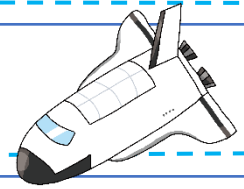


振り返りから

- このプログラムのように日系について紹介したり、子供たちにわかりやすく説明できるようアニメーションなども利用して、もっとたくさんの人たちに色々な日本の有名な建造物を見てもらったり、日本のことや日系のことを知ってもらいたいです。
- 学んだことは、日本の文化や食べ物は他の国との交流から得たものをたくさん取り入れているということです。移住した当時、日本人は移住した場所で現地の人にあまりなじめていなかったけれど、協力し合っていくうちに日本人も現地になじんでいき、現地の人たちに良い印象を受けてもらった事も知りました。これからは、移住先で出会った現地の人と日本人の関係や現地の人を感じた日本人の印象を調べてみたいと思いました。
- 私たちは、世界や自国における日本文化の影響、そして日系人としての伝統や習慣について学びました。日系人が子孫のために自国に残しているあらゆる習慣や伝統について、もっと調べてみたいです。
- これからもひとつの考え方にとらわれず、異文化のいいところは取り込むべきだと感じました。
- 日本人の精神性、特に移民が日本を離れ、全く異なる文化に直面したときの精神性についてもっと学びたいです。
- 日本人がどのように考え、世界から称賛されるような社会をどのように実現しているのを知りたいです。なぜラテンアメリカではできないのでしょうか？そこが面白いところです。
- 今回のプログラムでは、日系のことや、日本のことを深く知ることができました。日本について面白い意見や、他の国にある日本の物などを知る事が出来てとても良かったです。これからも日系のことや、日本のことをもっと調べていきたいです。
- ご飯を食べる時のあいさつや自分や他の人が使う場所をきれいにしておくことなどの日本文化をこれからもっと広めたいです。なぜかと言うと、ご飯を食べる時のあいさつはそこにご飯を作ってくれた人達への感謝の仕方だからです。使った場所はきれいにしておいて次に使う人のことを考えるという事は、私の住んでいる所ではあまりそう考えられていないから、広めていきたいです。

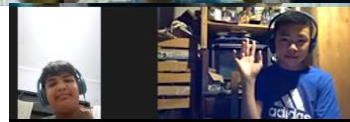
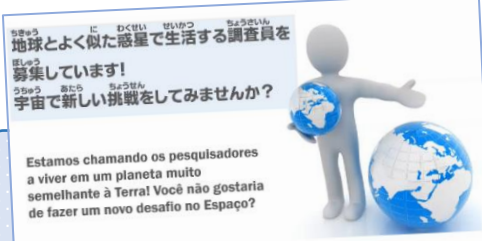


宇宙船に乗って



異なる文化を持つ土地に移り住むことを想像し、生活していくために必要なことをグループで話し合いました。助け合って生きていくために必要だと思うシステムやルール、現地の人々との関係において守ること、新生活を始めるうえで大切な心構えなど、活発な意見交換が行われました。

授業の最後にバーチャル見学をした JICA 横浜の海外移住資料館には、100 年以上も前に移住者が持参した荷物も展示されています。移住者のトランクの中身が、自分たちが作った宇宙へ持っていきたいもののリストと似ていることにも気がつきました。



振り返りから

- ✦ コミュニケーションの方法を考えること、相手の文化や考え方を尊重してあげること、自分の文化を大切にしながら他の文化と触れ合うことが大切だと思いました。
- ✦ 違う考え方や文化を持った人たちと暮らすには、その人の文化を受け入れること、自分から声をかけて行動すること、自分の意見をはっきり言って相手の話も聞き、お互いに理解し合うことが大切だと思います。
- ✦ 今回の授業では違う考え方や文化を持った人たち「宇宙人」とどうやって分かり合えるか、どうしたら仲良くなれるか、どう共存するかを学びました。他にも日本の移住者が南米に持ってきたものなど見る事が出来てとてもよかったです。
- ✦ 異文化の人たちと共生を学ぶには、人と人、人と文化が互いに尊重し合うことが必要だと思います。
- ✦ 日本からの移民が、異なる習慣を持つ新しい土地に適応することがいかに困難であったかについて、少し学ぶことができました。また、2つ以上の文化がうまく共存するための解決策についても知ることができました。
- ✦ 授業で考えたことは、もし宇宙船の中で一人である期間を過ごすとしたら、何を持っていくかということです。これについてもっと調べたいです。僕は宇宙船の機能と宇宙にいる期間によると思いました。
- ✦ 他の人とは、違いにかかわらず、よく接し、その文化や考え方について学び、理解しようとする事が大切だと思います。



ようこそ、先輩！



僕たちにとってJICA 研修とは？

- 新しい経験とチャレンジ



研修旅行



僕たちのグループ



このプログラムに参加している中学生と同じ日系のバックグラウンドを持ち、参加者のちょっと先を歩む日系ブラジル人3世の大学生、塚原健吾さんと崎山エリキさんの二人をスピーカーとして招き、中学生で初めて来日した6年前の「日系社会次世代育成研修」での体験談や、ニッケイ・アイデンティティを活かしたビジネスを模索する現在の挑戦についても話を聞きました。

医者として、日本ではたらしきたいな

15歳い+10年後-25歳い

- ◆この研修で出会った人たちと友達でいること
- ◆この研修で培ったつながりを25歳でも忘れないこと
- ◆日本に居ること
- ◆楽しく人生を生きること
- ◆Speak English
- ◆日本語ペラペラ

成長とともに、やりたいことや価値観も変化していく

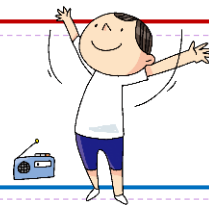


振り返りから

- ◆ 授業では多くのことを学びましたし、先輩たちの体験談もとても興味深かったです。何事にもベストを尽くし、常に学び続けたいと考えています。将来は、困難を乗り越えられる人間になりたいです。
- ◆ 今回は先輩たちのおかげで色々学べました。また話す機会があれば話したいです！将来は話が上手で、自信があって、積極的な人、誰とも仲良くできる人になりたいです。あと、みんなに優しくできる人になりたいです。
- ◆ 私は、チャンスをつかめれば無駄にしないと思っていますし、興味があることはしっかりやりたいと思っています。自分の考えを明確に相手に伝えることができ、お互いを尊重しながらコミュニケーションをとる忍耐力など、良いリーダーとしての資質を持った人になりたいと思います。
- ◆ 小さなことでストレスを感じない人間になりたいです。私の強みは、自分の中の2つの部分を認識し、1つだけでなく、両方であることを受け入れられることです。
- ◆ リーダーシップがあって、勉強ができて、明るくて、前向きで、努力家な人になりたいです。
- ◆ 先輩たちの言葉はいい学習になりました。これからは、そのアドバイスを活かして生活していきたいです。自分はみんなに信頼される存在になりたいです。いろんな人と交流ができて、二つの文化の知識を持っていることを、自分の強みとして活用できると思います。
- ◆ ケンゴとエリックが、日本での研修や自分たちの経験を私たちと共有してくれたことに感謝します。私は穏やかな性格、他人の発言を気にしない、わがままを言わない人になりたいです。
- ◆ 将来のためになるプレゼンテーションとメッセージをありがとうございました。先輩方の言葉を聞いて自分に自信ができました。私ももっといろんなことに挑戦して頑張っていきたいです。健吾さんとエリキさんも仕事を頑張ってください！応援しています！



オンライン運動会!



海外移住をした日本人が船上でも行っていたという運動会。日本人が作った移住地では、コミュニティの一大イベントとして今も運動会が行われています。そんな日系人に親しまれている運動会を、コロナ禍でも実現できるよう、中南米各国からの参加者をオンラインでつなぎ、新しい形の運動会に全員で挑戦しました。

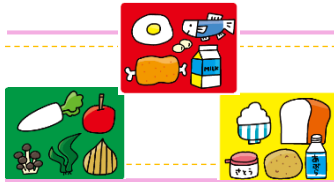
準備運動のラジオ体操も、慣れた様子で体を動かす参加者たち。こんな一場面からも、居住地で今も受け継がれている日本文化を確認することができました。赤組、黄色組、青組のチーム対抗戦では、ギネス記録に挑戦したり、お互いの出すヒントをもとに居住地やジェスチャーを当てたりと、運動会は盛り上がりました。



振り返りから

- ◇ またみんなとオンライン運動会に参加することが出来て、とても嬉しかったです。今回は知っている友達とは同じチームにはなれませんでした。たくさん新しい友達が出来て、すごく嬉しかったです。日本から南米へ移住するとき、運動会が船の中で行われていたのは知りませんでした。今回も面白いゲームがたくさんあって、すごく楽しかったです。特に、ラッキーパーソンが面白かったです。次のイベントがあったらまたみんなと参加したいです。楽しい運動会をありがとうございました。
- ◇ すべてがとてもよく、他の国の人たちにもたくさん会えました。今まで経験したことのないことだったので、これからもすべての活動に参加していきたいです。

- ◇ とても楽しかったです。他の場所の人たちと時間を共有するのが大好きでした。とてもユニークな体験でした。
- ◇ みんな一緒になっていたのが、本当にすごいと思いました。また、グループに分かれたときは、みんなが少しずつ話すので、とてもよかったです。先生方もとても親切で、何事も正しく行う方法を知っていました。思っていたよりずっと素敵でした。
- ◇ 始める前は緊張したけど、みなさんはとてもやさしかったのですぐ楽になりました。運動会はとても楽しかったです。色々な国の人と参加できてすばらしかったです。
- ◇ みんなが見せてくれた物でどこの国に住んでいるのかを考えたのが楽しかったです。
- ◇ いろいろな人と交流できるのはいい経験だと思います。いつかもう一度やってみたいです。



お好み焼でフュージョン!

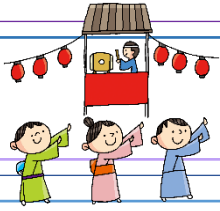


日本人にはおなじみの家庭科の授業ですが、実は、海外の学校ではあまり見かけない珍しい授業です。今回は参加者の居住地でも比較的手に入りやすい食材で調理ができる「お好み焼き」をメニューとして取り上げ、栄養バランスについて学んだ後、オンライン調理実習に挑戦しました。



振り返りから

- ◇ とてもおいしくできました。家にいると母に甘えてあまり料理をしません。でも、今日久しぶりに料理をして楽しかったので今度からは母と一緒に料理をしたいと思います。
- ◇ お好み焼きを初めて作ったので、あまり上手にできなかったけど、とっても美味しいお好み焼きができてよかったです！とても楽しかったです！ありがとうございました。
- ◇ おこのみやきが大好きです。日本語が最初はむずかしかったです。でもレシピはわかりました。お母さんとお父さんに作ってあげました。おいしいと言いました。また今度おこのみやきを作りたいです。
- ◇ みんなと一緒に料理をするのはとても楽しかったです。料理はとてもおいしく、すべての工程が楽しかったです。みんなと一緒に食べたり、おしゃべりしたりするのが楽しかったです。
- ◇ とても楽しかったです。自分で料理をつくるのが、こんなに楽しいなんて！
- ◇ 参加して良かったと思いました。皆で同じ料理をしているのがわくわくしました。初めて作ったお好み焼きが美味しく出来て、他のみんなと一緒に食べられて楽しかったです。
- ◇ 今回のプログラムで食べ物のこと、お好み焼きのことをもっと知ることができてとても楽しかったです。みんなも先生も料理が上手だったので、とても驚きました。私は料理は苦手ですが、先生にコツを教えてもらってよかったです。それにみんなと一緒に作ったお好み焼きはとても美味しかったです。今回のお好み焼きはボロボロになってしまいましたが、次は成功するように頑張りたいと思います。
- ◇ 大勢の人と一緒にカメラの前で料理をするという、今までにない経験でした。とても楽しかったです。
- ◇ 初めて日本のおこのみやきを皆さんといっしょに作ってとてもたのしかったです。おいしく出来上がってうれしかったです。

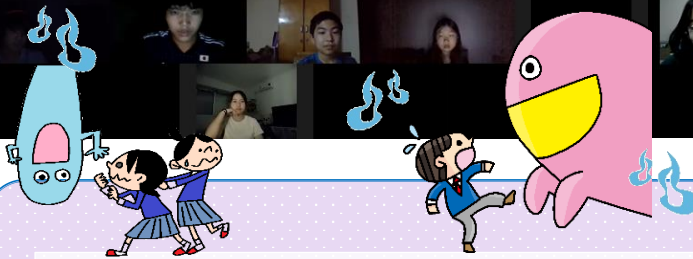
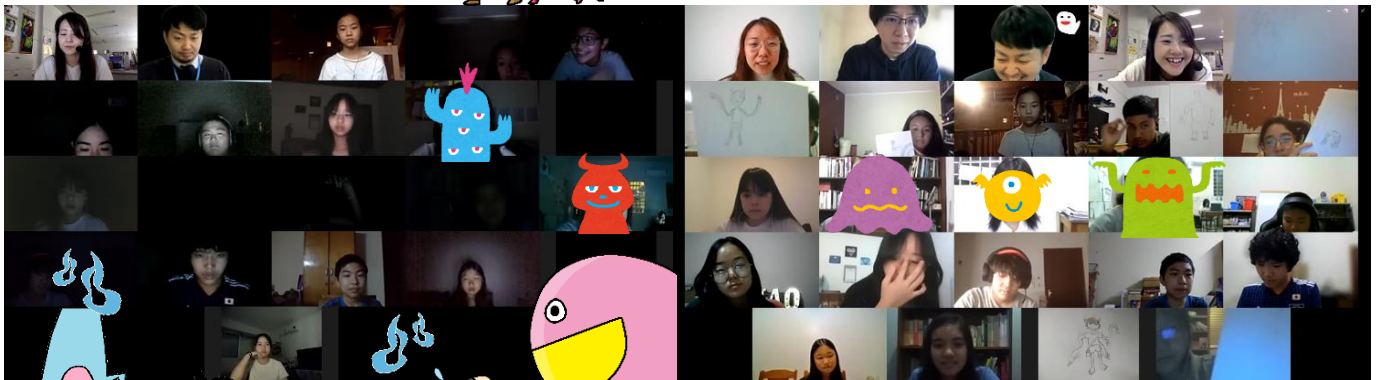


日本人と妖怪



マンガやアニメのキャラクターとしても世界的に有名になった日本の妖怪。コロナ禍で注目を集めた妖怪「アマビエ」をはじめ、日本各地で古来より言い伝えられている妖怪伝承の謎に迫り、妖怪が人間に教えてくれるメッセージについて考えました。

妖怪に出会うのは どんな時？

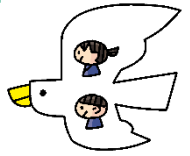


振り返りから

- ◇ チーム性が試されて、とても楽しかったです。現代の妖怪について話すのが楽しかったです。
- ◇ 今日のプログラムは、いろいろな意味でとてもおもしろかったです。明かりを消した時には妖怪といっしょにいる気分になったり、そして、どうして日本のみなさんが妖怪を信じたりするのか、妖怪の始まりや謎などもわかり、全体的にとっても良かったです。
- ◇ 各メンバーのアイデアはとても良いと思いました。また、授業でコメントされた内容もとても良かったです。
- ◇ 妖怪は、私が小さい頃から知っている話題で、久しぶりに子供の頃に戻ってきたような気がします。妖怪は問題をもたらすが、場合によっては良いこともある、ということをお私はずっと知っていました。お盆には、私たちの故人が来て、私たちの世界と接触するということなど、今日のプログラムは、すべてがわかりやすく、おもしろかったです。
- ◇ またこの妖怪に触れることが出来てうれしいです！！
- ◇ 今回のプログラムの日本人と妖怪に参加したのは2回目で、前回と少し違う問題や妖怪もあって楽しかったです。それに前回とは違うグループのみんなと妖怪を作ったり、一緒に考えたりしてとても楽しかったです。また次のプログラムを楽しみにしています。
- ◇ とても楽しかったです。妖怪について、そして日本人がどのように日本の夏を過ごしているのか、怖い話をしたり、どのような妖怪が存在するのかなど、より詳しく知ることができました。
- ◇ 楽しかったけど、怖かった～。
すごくハラハラしました。これから怖いことがあったら妖怪のせいになります…。



世界をつなぐ 10代のしゃべい場



横浜市立南中学校和太鼓部と沖縄県東村立東中学校のみなさんにご協力をいただき、横浜と沖縄、そして中南米の各地域をつないだオンライン交流会が実現しました。南中、東中のみなさんからは、地球の反対側で日本語を勉強している日系の生徒たちのため、クイズなども盛り込んだ学校の特色や地域の魅力紹介、和太鼓の演奏などがありました。日系の生徒たちは「日本の中学生のプレゼンテーションの説明が上手で、すごくわかりやすかった」「ますます日本に行きたくなった！」と同年代の日本の中学生が発表する姿に刺激を受けた様子でした。

後半のグループトークでは、緊張から急にシャイになってしまった日系の生徒たちでしたが、緊張がほぐれてくると、少しずつ会話の種を見つけ、お互いの生活について言葉を交わすことができました。日本の中学生との交流を通じて「日本で生まれていたらこんな生活だったんだろうな」と想像できたことも、日系の生徒たちにとっては自分たちのルーツを確認する上で、貴重な体験となりました。

生徒の机、椅子、ロッカー、先生の机、テレビ、掃除ロッカー、ホワイトボード、パソコンの充電器、黒板、ゴミ箱があります。



日本の中学生による 学校や横浜・沖縄の魅力紹介！

沖縄県の位置

沖縄県は、南西諸島の南半分に位置し、広い海にある大小160島しよで構成されています。

日本列島からの場所は南西端に位置します。

Okinawa is located in the southwestern part of Japan

There are about 160 islands in Okinawa

日本地図で見ると沖縄県はかなり下の方にあります



南中学校和太鼓部による迫力ある演奏は中南米まで響きました！



「どんな制服を着ているの？」お互いの制服を見せあいました。





世界をつなぐ 10代のしゃべい場



神奈川県

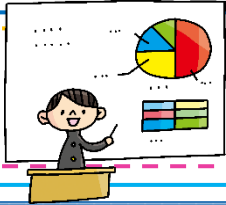
横浜市立南中学校、東村立東中学校のみなさん、
貴重な交流の機会をありがとうございました！



沖縄

日系中学生の感想から

- ◇ 僕たちのために朝、早くから学校に行って、プレゼンテーションを準備してくれたりして感謝しています。すごくプレゼンテーションが分かりやすくて良かったです。日本の中学校にますます行きたくくなりました！
- ◇ 初めはすごく緊張して全然しゃべれなかったけど、だんだんしゃべれるようになりました、今度は日本に行って直接話してみたいです、今回よりもたくさんしゃべってみたいです。
- ◇ 私達のためにプログラムや朝早くから学校の準備をしてくれてありがとうございます。発表ではたくさん学校のことや地域のことを分かりやすくおしえてくれてとても良かったです。とてもたのしかったです。
- ◇ 休日の朝早くに集まってくれて本当にありがとう。みんなと色々な話をして、日本に行きたいなと思いました。皆さんも私たちの国に行きたいとか、もっと話したかったか思ってくれていたら本当にうれしいです。本当にありがとうございました。次はぜひ対面で会いましょう。
- ◇ 今日は本当にいい経験で、日本語を少し練習することができました。皆さんと話し、皆さんの学校や生活習慣を知ることができ、本当に良かったです。私たちに会う時間を作ってくれてありがとうございました。この経験は一生忘れないと思います。
- ◇ 南中学校と東中学校の生徒のみなさま！私達とお話してくださり、どうもありがとうございました！少し緊張であまり思ったように話せなかったので、また話せる機会があれば今度はたくさん話したいです！今日はありがとうございました！！
- ◇ 今日をすごく楽しみにしていました。実際に日本の同い年の人とこんな風にして話せるなんて、私にとって、とても貴重な経験でした。もっと話したかった事、たくさんありましたが、次はオンラインではなく実際に会って話せる機会があればいいです。
- ◇ 学校のプレゼンテーション（制服や和太鼓のプレゼンテーションがとても良かった）や、日本の学校と、ここアルゼンチンの学校との違いなど、とても楽しかったです。
- ◇ 日本の中学生に日本の学校のことを教えてもらって、少しお話もできて楽しかったです。次また会えたら、もっとちゃんと自分からしゃべれるようにしたいです。
- ◇ 緊張してあまりしゃべれませんでした。でも日本のことが知れて、とてもいい経験ができました。今日は、とても楽しかったです。太鼓はとてもすごかったです。また見たいです。



自由研究プロジェクト



最後のプロジェクトでは、日系人である自分たちのルーツや家族が大切にしている文化や価値観について、調べてまとめました。それぞれの興味・関心に応じてテーマを決めた参加者は、自分の得意な力も活かしながら、日系の価値観や日本文化の魅力を未来へ伝えていく方法を考えました。

居住国にある食材で作る日本食レシピや、家族の大切にしている持ち物から考察する日本文化、家族がどのように海を渡り居住国までたどり着いたのか、当時の記憶をたどったインタビューなど、興味深い作品がたくさんありました。

おじいちゃんの人生ルート発見

祖父へのインタビューはとても楽しみでした。私たちはいつも顔を合わせ、時間を共有していますが、祖父が生きてきたこと、幼少期に経験した逆境のすべてを想像したことはありませんでした。このプロジェクトのおかげで、祖父についてもっと知ることができました。彼は強さの見本であり、私は彼をととても誇りに感じています。

UNA HISTORIA DIFERENTE ...

変わった移住者のストーリー

ENTREVISTA A MI ABUELO:
MASAHIRO NAKADA
NACIÓ EN LIMA, PERÚ EL 8 DE MARZO DE 1934. TIENE ACTUALMENTE 88 AÑOS.

祖父にインタビュー：
神田正憲
ペルーリマ市1934年3月8日に生まれました。
現在、88歳です。



No tenía idea de todo lo que vivió mi ojichan...

Ikigai (生きがい)

私のプロジェクトは、日本の哲学、つまり考え方について話したいと思ったことから始まりました。「生きがい」という言葉に出会い、刺激を受けたからこそ、自分の生活でも応用し、読者の方々にも試していただきたいと思っています。

DE PERÚ A JAPÓN Y DE JAPÓN A PERÚ Y PASANDO POR BOLIVIA

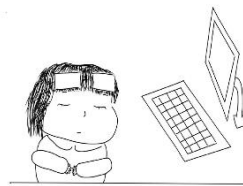
ペルーから日本へ、そして日本からペルーへボリビア経由

EN EL AÑO 1937, A LA EDAD DE 3 AÑOS VIAJÉ A JAPÓN CON MI BISABUELA, QUIEN REEMBARCÓ CON SUS 8 HIJOS, QUERIÉNDOSE MI BISABUELA EN EL PERÚ PARA TRABAJAR.

昭和12年（1937年）、3歳の時に祖母はと一緒に日本へ行きました。祖母は8名の息子・孫たちと一緒にペルーへ渡りました。
祖母はペルーで働くために渡りました。



自分が何であったかを忘れ、自分が何者であるか、何者になっていくかに自分を見失う...



そのときこそ、初心に帰って自分のイキガイを見つけることです。



沖縄の人たちにとって、上記のすべてが「生きがい」であり、大きなものでなくても、ランニングや夕日を見ること、庭の手入れをすることなど、小さな瞬間に大きな幸せを味わうことができるのです。

私が住んでいるグアタパラ移住地 -いつまでも残したい、ふるさと-



みんなにグアタパラ移住地のことをもっと知ってもらって、興味をもってもらいたいです。移住者のインタビューでは移住者の話以外に昔の面白い話や将来へのアドバイスなども聞く事が出来たのでとても勉強になりました。地球の反対側で日本の文化を残すために頑張っている活動している写真を見てもらいたいです。



自由研究 作品展



メキシコの食材を使った日本料理

1. サボテンの醤油とニンニクの炒め物



家の庭に生えているサボテンを使っています。まずは収穫。それからサボテンにはトゲがあるので、カッターを使って削り落とします。そこから千切りにして醤油とニンニクで炒めます。

2. ヒカマの金平



ヒカマはメキシコが原産とされるマメ科の植物の一つで、日本だと「落手(アズイモ)」と呼ばれているらしいです。

まずはヒカマの皮を剥いて、千切りにします。それから後は金平の作り方と一緒に。ゴボウとは違って、ヒカマはシャキシャキと歯触りがあります。

たとえば

- 考える 予想する 調べる
- インタビューする 行く 聞く
- 観察する 探す 記録する 会う
- 話す 作る 集める 食べる
- 試す 確かめる 比べる
- アンケートをとる デザインする
- 発表する 発信する
- まとめる ...etc.

祖先への敬意

BUTSUDAN: HONRANDO A NUESTROS ANTEPASADOS JAPONES

De: Marcelo Kiyoshi Mesias Saavedra

1. Que es?

El Butsudan es un mueble que se usa como un altar casero, que llegó como una costumbre japonesa junto con los migrantes japoneses. Además, puede contener diferentes tipos de accesorios.

2. Finalidad

Este altar o mueble sirve para honrar a los antepasados de cada familia en fechas y ocasiones especiales en las que se ora, se diga oraciones y se encienda sanko (incenso).

3. Significado

Este santuario puede llegar a verse comúnmente como parte de la tradición de una familia japonesa o nikkei, ya que es considerado como el centro de la fe espiritual de la familia.

4. Descripción

Este es un mueble con Puertas, adentro se encuentran tablas (Itai) con los nombres de los antepasados y el lado una foto de ellos. Otro elemento es el sanko, un incienso que debe estar prendido cuando alguien está orando o dando oraciones al butsudan. Además de todo esto también hay un envase con agua.

5. Inicios

Su historia comenzó en India, donde nació el budismo, para posteriormente llegar a China, Corea y finalmente a Japón.

6. Sabías que..

Para afianzar la relación entre peruano y japonés, el 9 de abril de 1989 se instauró el Día de la Amistad Peruano Japonesa.

7. Mi opinión personal.

En una conversación que tuve con mi oba sobre este tema, pude notar la importancia que tiene el butsudan en las familias japonesas. El honor a los antepasados es una muestra de respeto y consideración hacia ellos. Por ello, creo que esta costumbre no debe perderse y debe continuar de generación en generación.



fuentes de información:

<https://skdesu.com/es/butsudan-santuario-budista/>

<https://www.canalipe.tv/noticias/identidad/conoce-historia-detras-del-butsudan-un-mueble-que-pasa-de-generacion-en>

お盆と死者の日

お盆と死者の日

お盆

お盆は8月13日〜16日(地域によっては7月)に自分の先祖のご先祖様のお供えを行うため、先祖に帰って来る期間と考えられています。



お盆では盆火と送り火と言う、又から帰ってくる先祖の霊が渡っていくように目印として火を焚きます。



死者の日

死者の日は1月13日〜2日に米国に行った家族や友達、ペットなどが帰って来るとして盛大に迎える祭りです。

この祭りでは故人の家族、好きな食べ物、飲み物を準備し飾ります。その他、次々なのは、マスコット(メキシコは伝統的な動物)、パン(故人の顔が付いて死者の日だけに市販は少ない)、それからこの季節に合う食べ物(ソシやパスタ)を飾ります。お墓を黄色い花で飾る人もいます。



死者の日

死者の日は1月13日〜2日に米国に行った家族や友達、ペットなどが帰って来るとして盛大に迎える祭りです。



Japan Town in Buenos Aires

Conclusión:

En Buenos Aires tenemos un Jardín Japonés, muchos locales gastronómicos japoneses, instituciones, eventos culturales(matsuri, torneos deportivos, etc.), tenemos diversas disciplinas (karate, judo, odori, taiko, etc.)



Ichisou restaurante



Jardin Japonés



Buenos Aires Taiko

Pero la realidad es que todo está muy disperso en diferentes puntos de la ciudad. Teniendo una fascinante cultura me gustaría poder crear un lugar como el 商店街 de Asakusa Kaminarimon, uno de los que más me sorprendió con sus locales y su templo al terminar el recorrido. Pienso que esto sería una forma de atraer turismo en gran escala y poder difundir la tan bella cultura que tiene Japón en un mismo lugar.



安心出来る場所

安心できる場所

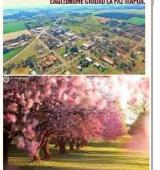
私が住んでいるラパス市は、自然が沢山あります。

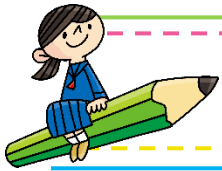
ラパスはスペイン語で「La Paz」と言います。日本語に訳すと「平和」と言います。ラパス市は、この文字の通り、すごく平和な場所です。ラパスは「平和で豊かな移住地」と思いを込めて、命名されたものです。



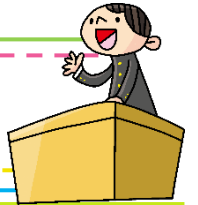
私は、ラパスが大好きです。

ここラパスは、私の今の友達に出会えた場所で、大人になるための一歩を学んだ場所でもあって、ここは、私たちの祖父祖母達がみんなが安心して暮らせるようにと形成された場所でもあります。私は、祖父祖母達の様に誰かに安心出来るここにいてよかったって思えるような、居場所を作れるような人になりたいです!!





自由研究を通して伝えたいメッセージ



- ◇ テーマは"メキシコの食材を使って日本料理"です。このプロジェクトを読んでみんなにどんな風に日系人が日本料理を食べているか知ってほしいです。料理の写真や庭に生えているサボテンなどの写真を撮るのにすごく手こずりました。日本料理とはちょっと違う味になりますが、メキシコの食材を使った日本料理もいいですよ。
- ◇ 私の目標は、私の親戚が日本からドミニカ共和国へどのようにやってきたかを知ることです。このことを知ることによって、私は彼らをもっと愛し、彼らが家族や日系社会のためにしてくれたことすべてに感謝できるようになると信じています。自分の家族について調べられると思うと、とてもワクワクしました。
- ◇ ひいばあちゃん、おじいちゃんたちに話を聞きました。印象に残っていることは、移住の大変なことを学んだことと、ぼくが聞いたことでひいばあちゃん、おじいちゃんたちが楽しく話してくれたことです。今もパラグアイでは日本文化が継承されていて、日本語話せない子供も一緒に取り組んでいます。
- ◇ 仏壇とは何か、日本の家庭にとってどのような意味があるのかを知ってもらうことが目的です。おばあちゃんとのインタビューから、日本の家庭で仏壇が重要視されていることに気がつきました。仏壇は先祖に対する尊敬と配慮の表れだと思います。日系人の文化や家族について詳しく知ることができ、とても良い気分でした。家族で共有している日本の伝統に、より一層感謝することができた経験です。
- ◇ 私の自由研究を読んだ人が、「日本の反対側にも桜があるんだ」「桜がこんなにもほかの国の市にも貢献しているんだ」「パラグアイの桜の町ラパス行ってみたいな」そう思ってくれれば嬉しいです。このプロジェクトを通じて、より多くの人にラパス市を知ってもらいたいです。
- ◇ 日本人がどのようにして私の住んでいるところに来たのかを知ることが目的に行きました。移住者が経験しなければならぬことの多さに驚きました。メキシコで生活するために、人々が経験した過程を詳しく知ることができ、とても興味深かったです。
- ◇ お盆と死者の日について調べました。お盆は知りませんでしたが、母に聞いて書きました。死者の日は何回も行ったことがあるので知っていることを書きました。このプロジェクトで一番気にいたのは、お盆で行われるキュウリとナスの意味です。このプロジェクトではお盆と死者の日の大切さがわかりました。年に一度死んだ家族に合える日なので、大切にします。
- ◇ 多くの日系人は、自分の家族がどこから来たのかあまり知りません。私たちは、自分がどこから来たのかを知ることによって、個性や価値観を形づくることができます。
- ◇ ラパスについていろんな人にインタビューをして、もともとラパスはどのようなところだったのかも教えてもらいました。どういう意味でラパスと名前を付けたのかも教えてもらい色々学びました。祖父母たちのようにみんなが安心できる居場所を作ったり、代々受け継がれるようなことをしてみたいです。みんなにも今友達がいたり、家族と一緒に暮らしていること、誰かと繋がれる場所は凄いなんだと心掛けて、繋がりを大事にしたいです。
- ◇ 私のプロジェクトは、日本料理をベースに、さまざまな料理とそれが体にもたらす効果を見てもらうものです。私の目標は、健康的な食品にはさまざまな種類があることを認識してもらうことです。このプロジェクトの感想は、日本食は美味しくて見栄えが良いだけでなく、多くの栄養を摂取でき、体の消化にも良いということを発見したことです。
- ◇ 私のプロジェクトは、ブエノスアイレスに「Japan Town」を作り、日本文化を広く伝え、移民には故郷を身近に感じてもらい、日系人の若者には自分たちのルーツをもっと知って学んでもらうことです。このプロジェクトに取り組みながら、日本にいなくても日本の文化を楽しく学べるように、日本らしいものを取り入れた商店街をイメージしました。
- ◇ クラスメートには、日本の移民についてもっと知ってほしいです。移民や日本人移民の決断の背景はとても興味深いものだと思うので、私の作品を通じて、他の人にも興味を持ってほしい、自分でも調べてほしいと思います。最初は「どの国でも同じような情報なのでは」と思っていたのですが、国によって歴史が異なり、全く似ていないものもあることがわかりました。自分の国以外の国で起こったさまざまな状況が、今の社会を作り上げていることを知り、感動しました。

5.総評

明治元年（1868年）、サトウキビプランテーションの労働者としてハワイへ渡ったことから始まる日本人のアメリカ大陸への移住の歴史は150年以上の歴史を有しています。その間、各国、各地域の日系社会では日本語学校を中心にコミュニティを形成し、今日まで継続してきています。しかしながら、世代が進むにつれ、日本語学校に通う日系子弟の減少、日系コミュニティへの帰属意識の低下や日系アイデンティティの希薄化といった問題が顕在化し、日本との繋がりもだんだんと弱くなってきているのが現状です。

そのような現状に鑑み、本研修では、次世代の日系社会を担う人材育成の一環として、「日本人の海外移住の歴史に関する学習、ホームステイや体験入学といった日本で生活する人々との交流、その他各種研修を通じて自分たちのルーツ、日本文化、習慣等を学んでもらい、日本に対する理解を深めることで、自らの日系人としてのアイデンティティを強化すること」を目的としています。

2020年度より新型コロナウイルスの感染拡大のために中止が続いている従来の訪日研修ですが、今年で研修中止も3年目となり、各国の日本語学校からは訪日研修を目標に日本語学習に励んできた生徒たちの学習意欲の低下も報告されています。このような状況下で学習を継続している12～15歳の日系子弟に、日本文化及び家族のルーツについて触れる機会を作り、さらに同年代の日系人や日本人との交流を通じて、日本語学習への意欲を再び高めてもらえるよう、日本文化や日本人の海外移住について考えるオンライン学習を実施しました。

今年度のオンライン学習では、個々の興味・関心に応じたプログラムへの参加を可能とするため、訪日研修で実施している「移住学習」および「日本体験」に関するプログラムをテーマ別に一回完結型の授業として開講し、関心のあるテーマについて学びを深める「自由研究」も選択性とししました。参加者の自主性や関心に基づき、一人ひとり異なるプログラムデザインが可能となったことで、参加者は希望したプログラムの中で学びの楽しさや同世代の仲間たちとつながる喜びを体験することができたようでした。

移住開始当時の日本人移住者の体験や移住先国での苦労を想像した移住学習プログラムでは、異なる文化・価値観を持つ人々との共生に必要なことについて意見交換を行いました。参加者は家族や周囲の大人から聞いた移住者の体験をグループの中で共有することで、日本人の海外移住がもたらした事象や社会変化について多角的に考察することができました。また、参加者と同じ日系のバックグラウンドを持つ先輩の体験談からは、自身の強みやアイデンティティについて気づきを得た参加者も多く、自身の内面にも目を向け、理想とする大人像について思いを巡らせる機会となりました。

日本文化に関する学習や体験を目的とした日本体験プログラムでは、異なる場所で暮らす日系の仲間たちと運動会や調理実習をともに体験したことで、お互いが持つ共通した文化を発見し、日系同士のつながりも確認することができました。中学生にも人気のある日本の妖怪文化からは、日本人の生きる知恵を学び、日本文化の考察へとつなげました。実際に同年代の日本人と言葉を交わし

た中学生交流会では、コミュニケーションの難しさを感じながらも、日本の中学生の生活や学校の様子を知り、「いつか日本でもう一度会って話をしてみたい」「日本語をもっと勉強して、次はもっと話せるようになりたい」など、新たなモチベーションを得た参加者も多く見受けられました。

各自がテーマを決め、プロジェクトに取り組んだ自由研究プログラムでは、居住国と日本の文化を比較し、両国に共通した価値観を導き出した作品や、家族が所有する仏壇から日本人の精神を考察した作品、沖縄文化から学んだ生き方の哲学についてまとめた絵本など、参加者の視点から掘り下げられた興味深い作品が集まりました。また、移住をテーマに度重なる逆境にもまれながらも生き抜いた家族の歴史や、日本人移住者が後世の子孫を思い開拓した移住地の歴史について調べた参加者からは、家族や日本人移住者に改めて感謝する姿勢や、尊敬の念を深めた様子が見受けられました。

新型コロナウイルスの感染拡大により3年間続いたこのオンライン学習ですが、初年度より継続して参加してきた生徒からは、「本当は日本で研修に参加できるはずだったので、3年間研修が中止になってしまい、ショックでした。しかし、オンラインという形でも、先生たちと一緒に授業を受けたり、みんなと話したりすることができて楽しかったです。世界中に友だちもでき、このプログラムに3年間参加して良かったと思っています」と感想を述べていました。

現在、中学生という年代の参加者が、日系アイデンティティについて考えを深め、日系社会の一員として社会に貢献していけるようになるには、この先、実際に日本に訪れ体験する人との出会いや、五感をもって日本とのつながりを意識する体験が肝要であることは言うまでもありません。しかしながら、コロナ禍においても、自身のルーツや日本文化に関する学びを深め、他国・他地域で暮らす同世代の参加者との交流を通じて、日系のつながりを確認できた体験は、今後の日系社会や日本とのかかわりにおいて、主体的に学び行動するための新たな原動力となっていくのではないのでしょうか。このプログラムでの体験を各々が今後の自己実現に向けた学習に活かし、各国日系社会と日本との架け橋になっていけるよう、参加者のさらなる成長と活躍に期待しています。

2022 年度

「日系社会次世代育成研修（中学生プログラム）

オンライン移住学習」募集要項

2022 年 7 月



独立行政法人国際協力機構（JICA）

2022 年度「日系社会次世代育成研修（中学生プログラム）
オンライン移住学習」募集要項

1. 目的

日本人が「なぜ」「いつ」「どのように」中南米に移住し、「どのように」ニッケイ・コミュニティを形成し、「なにを」創出したかについての学びを通して、課題解決能力やコミュニケーション能力を高め、コミュニティへの貢献意識の高い人材を育成します。

例年、研修員を本邦へ招へいし、研修を実施していますが、新型コロナウイルス感染拡大が完全に終息していないため 2022 年度はオンラインで研修を実施します。

2022 年度のオンライン移住学習は 1. 日本人の移住や日系コミュニティの形成について学ぶ移住学習プログラム、2. 日本や日本文化への興味を広げ、日本語学習の意欲を高める日本体験プログラム、3. 参加者が自らのテーマを定め、次世代に継承していくためのプロジェクト学習プログラムを研修の 3 本柱として各コマを設け、必要コマ数を受講した者へ修了証を発行します。

2. 対象国および人数枠

カナダ、メキシコ、ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラ、ブラジル、ペルー、ボリビア、パラグアイ、アルゼンチン（10 か国）

対象国毎の定員は設けず、下記研修コマ毎の定員制とし、基本的に応募先着順とします。興味のある 1 コマ単位の参加も可能です。応募者が定員を上回る場合は調整の上、JICA 事務所より連絡します。

3. 実施期間

本募集は 2022 年度実施のオンライン研修の実施となります。

（2023 年度の本邦研修の募集は別途行いますのでご注意ください。）

（1）実施期間（予定）

（日本時間）2022 年 10 月 1 日～2023 年 2 月 11 日（プロジェクト提出締切）

（各国時間）2022 年 9 月 30 日～2023 年 2 月 10 日（プロジェクト提出締切）

各プログラムの実施日程は以下の通り。

（2）応募期間・応募方法

参加希望者は日本時間 2022 年 8 月 8 日午後 10 時～2022 年 8 月 21 日午後 10 時まで
に専用応募フォームにて必要事項を入力し、申込を行います。

応募フォームの URL は別途配布するチラシにて連絡します。

応募フォームへの記載内容を JICA 事務所にて確認の上、参加者へは研修開始日の概ね 1 週間前に本オンライン研修を実施する海外日系人協会より連絡します。

1. 移住学習プログラム

学習内容	定員
① 移住の歴史	30
② 人の移動、モノの移動	30
③ ニッケイ・コミュニケーション	30
④ ニッケイ・アイデンティティ	30
計	120名

2. 日本文化体験プログラム

体験プログラム内容	定員
① アイスブレイク	30
② 食育・日本料理	30
③ 日本文化とSDGs	30
④ 日本の中高生との交流会	30
計	120名

3. プロジェクト学習プログラム

	定員
自由研究	なし

4. 実施概要

別紙1を参照してください。

5. 応募資格要件

・中学生

(1)に該当し、(2)以下すべての要件を満たすことが必要です。

(1)海外移住者及び概ね日系3世までの海外移住者の子孫(※)であること。

※日本人移住者の血統を引く者を指します。

※事業対象国に定住しており(主たる生活基盤があること)、

日系日本語学校に通学している者、または通学希望の者。プログラム参加時点で、原則、日本の中学生相当(12歳以上、15歳以下)であること。

(2)親権者または保証人の同意が得られること。

※共同親権が法制化されている国においては、全親権者の同意が得られること。

(3)日本人の海外移住の歴史や日本文化について学び、日本や自らのルーツに対する理解を深めたいという強い意欲があること。

(3)オンライン移住学習に参加するに当たり、各参加者は自宅で受講することを想定しています。参加に必要な機器(PCやスマートフォン)、インターネット環境は各自で準備いただきます。また、受講の際はPCまたはスマートフォンのカメラを使用し

ます。

なお、グループディスカッション等お互いの画面共有の関係から、PCからの参加を推奨しますが、難しい場合はスマートフォンからの参加も可とします。（グループディスカッションは講師や他の参加者とのコミュニケーションのため、カメラオンでの参加を基本とします。）

(6)教材の著作権や講師・他の参加者の肖像権について参加前の注意事項を順守すること。

6. 応募フォーム入力内容（応募フォームのURLは別途連絡します。）

(1) 応募フォーム記載内容

- ① 氏名
 - ② 生年月日
 - ③ 所属日本語学校名・学年（所属の無い場合は通学希望と記載）
 - ④ 日本語学習歴
 - ⑤ 保護者氏名
 - ⑥ 参加同意の本人確認（チェック欄）
 - ⑦ 参加同意の保護者確認（チェック欄）
 - ⑧ 参加希望プログラム（選択欄）
 - ⑨ 本人連絡先メールアドレス
 - ⑩ 保護者連絡先メールアドレス
 - ⑪ 連絡先電話番号
 - ⑫ 作文1「今回プログラムに応募した理由（日本語）」*
 - ⑬ 作文2「プログラムで学んだことを今後どのように生かしたいか（日本語）」*
 - ⑭ 修了書授与要件に満たないコマ数申込者への参加証発行希望の有無
- * 作文は応募者の日本語能力を図るものではなく、研修受講の意欲と現在学んでいる（今後学ぶ）日本語を使用して作文することに挑戦していただくことを目的とするものです。

・本オンライン学習に参加することによって、来年度以降の来日研修への参加資格を失うものではありません。
来日研修の募集は、来年度以降に別途行います。来日研修の参加希望者は改めて来年実施する研修へご応募ください。

7. 募集期間

JICA 在外事務所への応募書類提出締切日は各在外事務所により決定されるため、各在外事務所の指示に従ってください。メールでの応募も可能とします。

8. 参加の資格取消

参加者が次の事項に該当する場合、JICAはその資格を取り消すことがあります。

- (1) JICA の指示および決定に従わなかったとき
- (2) 本人の故意、重大な過失または怠慢等により、プログラムの参加を継続することが困難と認められるとき
- (3) 本人の都合により参加を中断したとき
- (4) 応募フォームの記載事項に虚偽が発見されたとき
- (5) その他 JICA がやむを得ないと認める事由があるとき

9. その他の留意事項

- (1) 応募者は、事業対象国の国籍を有すること（あるいは日本の国籍を有すること）が望ましいです。
- (2) 参加者は肖像権及び個人情報使用承諾書を JICA 事務所へ提出してください。
- (3) 本オンライン移住学習と通常実施している来日研修では、参加・資格要件が一部異なることから、本オンライン移住学習への参加が来年度の来日研修への参加を保証するものではなく、2023 年度の来日研修の選考は別途行いますので、参加希望者は改めて来年度の研修にご応募ください。
- (4) 参加者が 8 の参加の資格取り消しの事項に該当する場合、JICA はその資格を取り消すことがありますので、事前に十分理解して、参加申し込みを行ってください。
- (5) 本プログラムの一部は 2020 年、2021 年度に実施したオンライン移住学習と同じ内容となります。

10 研修修了証書授与の基準

- (1) 必須科目（「移住の歴史」、及び「自由研究」）と必須科目以外の移住学習プログラム 3 コマから 1 コマ、日本語体験プログラムから 2 コマ以上の計 5 コマ以上を履修した者
- (2) プロジェクト学習は期日までの提出が必要です。

1 移住学習	移住の歴史	受講必須 いずれか 1 コマ以上選択
	人の移動、モノの移動	
	ニッケイ・コミュニティ	
	ニッケイ・アイデンティティ	
2 日本体験	アイスブレイク	いずれか 2 コマ以上選択
	食育・日本料理	
	日本文化と SDGs	
	日本の中高生との交流	
3 プロジェクト 学習	自由研究（移住または日本文化に関するテーマを自由に選択）	必須
	例 1：次世代に伝えたい日本、日系文化	

	例 2 : 移住史の記録、インタビュー	
	例 3 : 日本、日系文化のイベント企画	
	例 4 : 日系社会を世界に紹介	

1 コマ単位の参加で事前に希望した受講者へは参加証を発行します。

以上

別紙 1 : 「日系社会次世代育成研修（中学生）オンライン移住学習」実施概要

別紙 2 : 「肖像権及び個人情報使用承諾書」